



Integrity & Sustainability

2022年1月19日

Sector : その他金融

プレミアムグループ (7199)

2022年3月期 第2四半期
2021年7月 - 9月

GIR Earnings View



2022年3月期
第2四半期概要

- 2022年第2四半期（上半期）の営業収益は、前年同期比で20.5%増の10,104百万円と大幅に伸長し、半期で初めて100億円を超えた。税引前利益は同▲4.3%の1,915百万円であったが、前年同期の特殊要因（一過性の負ののれんの収益計上）の影響を控除すると、実質で同31.5%の増益となった。
- 収益上のハイライトは、クレジット・故障保証という主力事業の伸長に加え、新規事業であるオートモビリティサービス事業の黒字化。部品販売や車両卸販売が収益の伸びを牽引した。これまでは、セグメント情報がクレジット関連事業の単一セグメントだったが、今期から、ファイナンス事業、故障保証事業、オートモビリティサービス事業の3セグメントでの情報開示となったのも、オートモビリティサービス事業の収益貢献への自信の表れと言えよう。
- また、経営上のハイライトとしては、同社のDX戦略の輪郭がマイルストーンの開示により、明確になった点が上げられる。同社の将来収益のポテンシャルを多面的に検証する上で、DXの推進は極めて重要である。そのマイルストーンが示されたことにより、投資家は同社が計画通りにDX戦略を進めていることがより見え易くなったと言えよう。
- 今後、同社の3事業は相互にシナジーを生みながら成長する見通しであるが、これらの事業の成長を支える基礎が現在構築中のDX投資であり、その質が利益の伸びる速度を決めると言っても過言ではない。引き続き、DX戦略の進捗には注目していきたい。

- クレジット取扱高は1,004億円と半期で初めて大台を突破し、クレジット債権残高も、前年同期の3,380億円から3,931億円に伸長した。結果、ファイナンス事業の営業収益は、同13.0%増の6,626百万円となった。税引前利益は1,533百万円。
- 営業収益の伸びには、クレジット加盟店社数の増加(前年同期比106.1%)に加え、有料会員化を促進してロイヤリティの向上による取扱増加を図ったことが奏功した。また、大阪にコンタクトセンターを新規に開設し、未稼働加盟店の掘り起こしも積極的に行っている。
- 利益面では、DX施策及び営業組織再編により、効率的な営業活動の実現が貢献した。営業一人当たりの取扱高が1.53億円から1.78億円に改善した。営業収益の伸長、DX推進によるコスト構造の改善に加え、徹底した初期延滞の抑制や子会社である中央債権回収㈱との間のシナジーなどが利益に貢献した模様。

ファイナンス事業

2



Integrity & Sustainability

2022年1月19日

Global IR, Inc.

GIR View(cont.)

- 営業拠点数は、前年同期比で9拠点増え、全国24拠点となり、目標としていた営業人員100名体制も概ね実現。会員制サービス「PFS Premium Club」の有料会員募集促進も進展し、今後のロイヤリティ向上と取扱件数の増加が期待される。
- DX戦略が順調に進捗している証左となるのが取扱件数中のペーパーレス導入率。今2Q期末時点で79%と今1Qに比べ5%ポイント改善した。

ファイナンス事業 (続き)

3

故障保証事業

- 故障保証事業の営業収益は、故障保証取扱高が前年同期比12.3%増の25.2億円と過去最高を更新したことで、前年同期比10.6%増の2,169百万円となった。税引前利益は236百万円であったが、利益率の高い自社商品取扱高が前年同期比29.0%増となり、プロダクトミックス改善効果が表れた模様。
- 一方、提携商品はマーケット不振の影響を受け、伸びが鈍化した。提携商品に特化した営業人員を増員するなどの対策を行っている。
- その他、新商品（延長保証、点検整備に付帯する保証）の強化にも取り組んでいる。
- また、更なる原価低減に向け、整備ネットワークへの入庫や自社での中古部品調達を推進している。
- 今後注視すべきは、DX戦略の一環として開発している、来期にリリースされる予定の新システム。ディスクローズを待ちたい。

- オートモビリティサービス事業の営業収益は、有料会員組織の拡大に伴い各サービスの取扱いも増加し、前年同期比133.8%増の1,309百万円となった。整備ネットワーク社数が大幅に伸長し、前年同期比63.3%増の3,160社と2025年の目標である3,000社を前倒しで突破した。
- 税引前利益で16百万円の黒字化を実現したが、1Q▲11百万円、2Q27百万円と2Qからの黒字転化であり、3Q以降の利益貢献にも期待ができる。
- 今後は、整備工場の有料会員組織であるFIXMAN Club会員開拓に注力する。新たな会員種別を追加し、会員向けコンテンツの拡充により新規会員の獲得を目指す。また、積載車のリースを10月に開始したほか、来期には集客支援サイトを開始する予定であり、オートモビリティサービス事業の近い将来の利益貢献度から目が離せない。

オートモビリティ事業

4



投資家ミーティングからのFAQ

Q1: 経営者の長期的な目標やビジョンについて教えてください

プレミアグループ (7199)は、継続的に海外機関投資家とのミーティングを行っている。これらミーティングから炙り出される投資家に共通の関心事とその回答をここにまとめる。回答は、同社からの回答に、アナリストの解説と追加情報を加味したもの。順序は、特に関心が高かったと思われる質問からとする。

A1: 日本では、中古車ディーラーや中古車の購入方法、中古車のアフターサービスなど、中古車に関する情報が乏しく、消費者が中古車業界に持つイメージがあまり良くない。そこで、当社がディーラーや整備工場といったモビリティ事業者と一般消費者の間に入り、業界のプラットフォーム化を推進していく。今後は中期経営計画の取り組みや、DXを推進していく中で、中古車クレジットや故障保証、モビリティ関連のサービスの提供を通じて、より一層の利便性を消費者へ届けることで中古車業界のイメージを変えていきたい。

ファイナンス事業と故障保証事業、オートモビリティサービス事業の間には明確に相互シナジーが存在する。経営効率の視点における3事業間の相互補完性の高さは、中古車ディーラーや整備工場などのモビリティ事業者と消費者に対する「ワン・ストップ・ソリューション」の提供に繋がる。現在、プレミアグループで促進しているDXが、これを牽引する。

中古車クレジット市場におけるプレミアグループの市場シェアは、まだ10%に過ぎないため、伸び代は十二分にある。現在、半導体不足により新車の買い替えが滞っているが、中古車価格の上昇と市場シェアの拡大で、業績は見通しを上回る推移を見せている。今後もさらに市場シェアを伸ばしていくが、スケールメリットに依存して利益率を下げることはない。プレミアグループは、2025年3月期に現在の約4倍である2,000億円の時価総額を目指したいと考えている。目標到達の前倒しと合わせて期待して欲しい。

Q2: 半導体不足の影響は、会社業績にどのような影響を与えているのでしょうか。また、現在の半導体供給不足状態は、今後いつまで続くとお考えですか。

A2: 現在の中古車市場は、あまり良いとは言えない状況である。世界の半導体供給不足により、新車の生産が滞っている。納車時期の遅れ等により消費者の買い替えも停滞するので、中古車供給の不足状態が続いている。この状況は、2022年に入ってもまだ続くと考えている。

その一方、コロナの影響で、移動手段としての需要が、電車から車にシフトしている。このため、中古車市場の需用は、ひっ迫気味に推移しており、中古車価格が上昇傾向にある。必然的に、プレミアグループを含めた中古車業界の中古車1台当たり利益額は増加している。その結果、取扱台数の伸びの制約を中古車価格の上昇がカバーすることで、当期の業績は、これまで経営計画を上回るペースで推移している。

Q3: プレミアグループのファイナンス事業は、中古車クレジット市場でシェアを伸ばしていますが、それはどのような理由に起因するものなのでしょうか。

A3: 銀行傘下でない「独立系」であることがシェア獲得の大きな要因である。日本ではオートクレジットを組む場合、顧客がどの信販会社のオートクレジットを選ぶのではなく、中古車ディーラーが利用する信販会社を決定する。

つまり、シェアを伸ばすには、中古車ディーラーからプレミアグループのオートクレジットが選ばれる必要がある。中古車ディーラーに選ばれる理由としては、



中古車ディーラーが中古車販売で必要とするソリューションをワンストップで提供でき、中古車ディーラーにとって使い勝手の良い会社であることが必要である。

大手の競合他社である銀行系信販会社は、銀行系であるが故に銀行法の規制を受けるため、金融サービスの提供しかできない。一方、プレミアグループは独立系なので、銀行法の規制は受けず、中古車クレジット以外にも中古車販売で必要となる故障保証の提供など、複合的・総合的なサービスの提供が可能である。蓋し、プレミアグループは、中古車ディーラーに寄り添ったサービスの提供を行うことの適う「ワン・ストップ・ソリューション・プロバイダ」となることで、中古車ディーラーにとって、信頼の置ける選ばれる企業となっている。

また、プレミアグループは、金融商品において中古車クレジットに特化している。これに対して、競合他社は、中古車クレジットだけでなく様々な金融商品を取り扱っているため、プレミアグループの営業マンは、金融商品だけでなく車のこと全般についてディーラーの悩みに寄り添える体制を築いている。そうした差別化が、中古車ディーラーに選ばれる要因となっている。

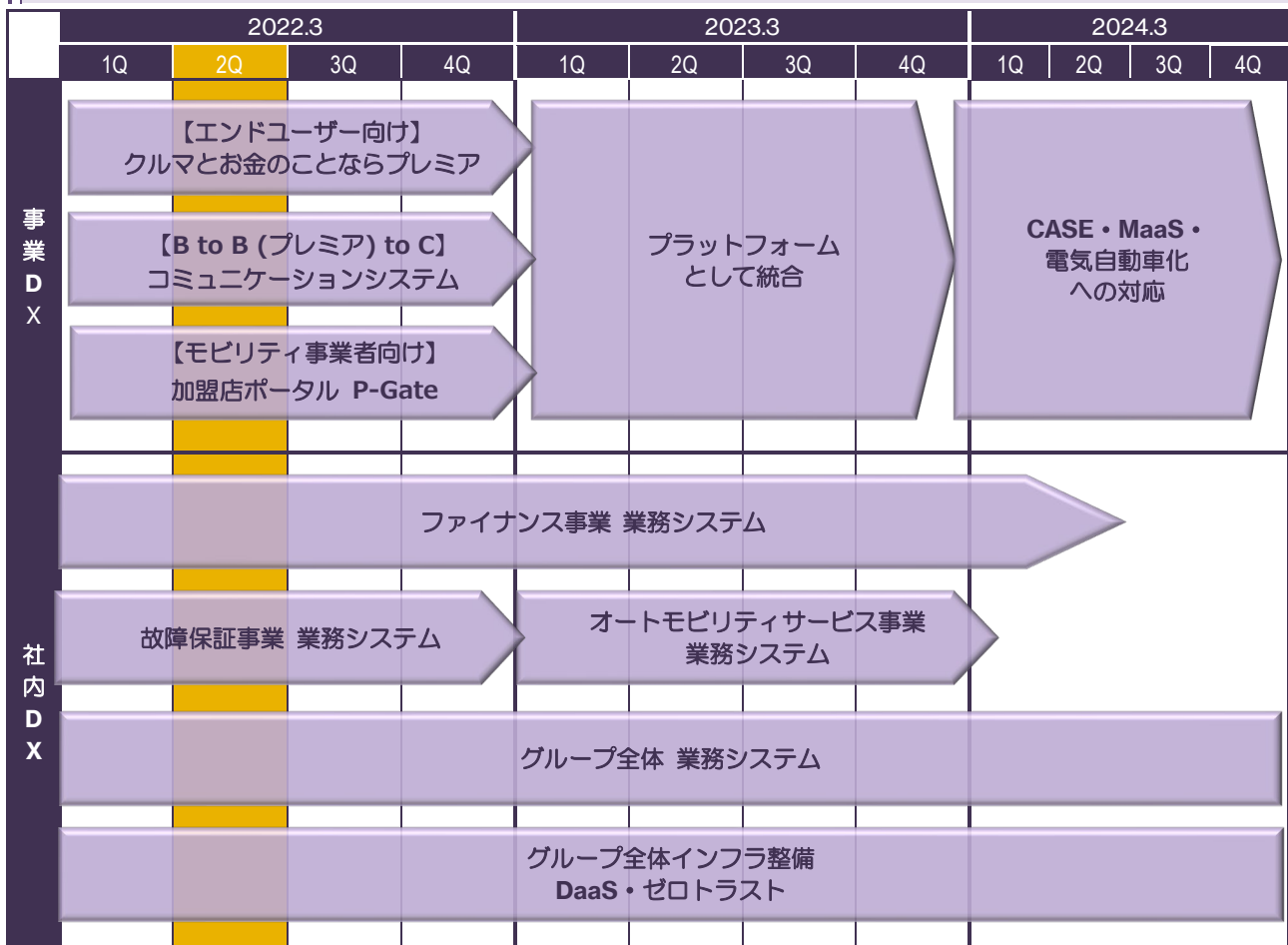


トピックス

同社株式は、JPX日経中小型株指数の構成銘柄に選定された。また、間もなく始まる予定のプライム市場の上場維持基準に適合し、取締役会にて移行申請が決議された。今後、同社への投資を検討する投資家の幅が増えることになるだろう。

同社のDX戦略の進捗が明確になってきた。公表されている内容は限定されているが、今回初めてマイルストーンが示されたことは、正にその証左と言えよう。

DX戦略タイムライン：今期・来期は開発フェーズに位置、各開発は順調に進捗



出所：会社資料を基にGlobal IR, Inc.作成



Integrity & Sustainability

財務データ (連結：四半期毎)

損益計算書

(百万円)

決算期	FY03/20						FY 03/21						FY03/22			
	1Q	2Q	1H	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q	2Q	1H	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q	2Q	1H	1Q-4Q (会社 予想)
営業利益	3,149	3,510	6,659	3,514	3,843	14,016	4,022	4,365	8,386	4,401	5,037	17,825	4,891	5,214	10,104	21,446
前年比(%)	23.9	32.9	28.5	30.1	33.7	30.3	27.7	24.9	26.0	25.3	31.1	27.2	21.6	19.5	20.5	20.3
税引前利益	2,364	688	3,052	190	-639	2,604	1,180	821	2,001	798	664	3,463	832	1,083	1,915	3,500
前年比(%)	575.4	-0.6	192.8	-7.8	-175.3	24.2	-50.1	23.3	-34.4	320.0	-	33	-29.4	31.9	-4.3	1.1
税引前利益率(%)	75.1	19.6	45.8	5.4	-16.6	18.6	29.3	18.8	23.9	18.1	13.2	19.4	17.0	20.8	19.0	16.3
純利益	1,546	300	1,845	125	-505	1,466	784	530	1,313	522	548	2,383	608	751	1,358	2,409
前年比(%)	561.8	-34.9	165.9	4.0	-190.8	5.6	-49.3	83.0	-28.8	314.3	-	62.6	-22.5	41.8	3.4	1.1
純利益率(%)	49.1	8.5	27.7	3.6	-13.1	10.5	19.5	12.1	15.7	11.9	10.9	13.4	12.4	14.4	13.4	11.2

出所：会社有価証券報告書を基にGlobal IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入 Globl IR, Inc.の計算による

FY03/20 1Qに会計上の見積りの変更等の影響で一時的に収益が発生し、税引前利益と純利益が増加。

また、FY03/20 4Qに新型コロナウイルス感染症に伴う世界的株安の影響から、タイの持分法適用関連会社であるEastern Commercial Leasing p.l.c.の株価が一時的に暴落し、約8.7億円の減損損失を計上。

財務データ (連結：通期)

一株当たりデータ

決算期	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3会予
発行済株式総数(千株)	60	60	6,060	6,601	13,275	13,334	-
EPS	27.6	70.6	107.4	113.1	112.3	186.7	187.0
EPS調整後	27.6	70.4	99.5	104.9	110.3	184.6	-
BPS	277.7	356.6	471.2	413.9	411.2	563.1	-
DPS			42.5	42.5	44.0	46.0	50.0

Note: 同社は2019年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っており、2019年3月期の期末以前のEPS・BPS・DPS実績については当該株式分割が行われたと仮定した額を記載。

キャッシュフロー

(百万円)

決算期	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3会予
減価償却費	206	335	339	332	855	1,316	-
営業活動によるキャッシュフロー	2,712	2,769	1,043	-1,015	-1,246	1,321	-
投資活動によるキャッシュフロー	-4,860	-1,393	-852	-706	-1,618	-1,172	-
財務活動によるキャッシュフロー	7,489	-2,223	1,790	1,563	2,967	1,617	-

財務データ

(%)

決算期	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3会予
総資産利益率(ROA)	2.1	4.5	6.0	5.3	5.1	5.5	-
自己資本利益率(ROE)	9.9	22.3	25.9	24.8	27.4	38.3	-

出所：会社有価証券報告書を基にGlobal IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入 Globl IR, Inc.の計算による



Integrity & Sustainability

免責事項

本レポートは、掲載企業のご依頼によりGlobal IR, Inc.が作成したものです。
本レポートは、情報提供のみを目的としており、当該企業株式への投資勧誘や推奨を意図したものではありません。
本レポートに記載されている情報及び見解は、Global IR, Inc.が信頼できると判断した情報源から得、または公表されたデータに基づいて作成したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。しかしながら、正確性、客観性を重視した分析を心がけ、最終的な中立性・独立性には最善の注意を払っています。また、当該企業経営者等とのディスカッション、および独自のリサーチに基づき、我々が投資家にとって重要と思われる視点をGlobal IR, Inc.のオリジナル・オピニオンとして提供しています。Global IR, Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。当該企業株式への最終的投資判断はあくまでも自己の判断・責任でお願いします。